

TIRI NEWS

Eye

Vol.66

株式会社タック印刷

海外規格やSDGsへの対応を通じ 製品の競争力と企業価値を高める

UL規格は、北米に輸出に必要な安全規格です。精密機器メーカーなどにラベルを納入している株式会社タック印刷は、自社の強みとして継続的にUL規格の認証を取得し、付加価値の高い製品を提供しています。また、SDGs*などにも積極的に取り組んでいます。同社代表取締役の高田 朋幸 氏に話を伺いました。

海外規格の認証取得で 他社との差別化を図る

UL規格は、電気製品を北米へ輸出する際には多くの場合で必要となる規格です。

「最終製品がUL規格に認証されるためには、製品に貼り付けるラベルなどの部品もUL規格認証を取得している必要があります。その際、ラベルの素材、粘着剤、印刷方法や使用される環境などの条件によってさまざまな決まりがあり、UL規格の認証がないラベルを使用する場合は、最終製品メーカーが自らUL規格認証品であることを証明する必要が生じます。当社では、自社でUL規格の認証を取得したラベルを販売することで、メーカーに対してのメリットを生み出しています」(高田氏)

ラベルメーカーをはじめ、UL規格認証品を製造する部品メーカーは少なくありませんが、その一方でやむを得ず諦める企業もあるといいます。

「UL規格の認証を取得するには、手間とコストがかかる上に、年に4回の抜き打ち検査にも対応する必要があり、継続的に規格を取得する企業には大きな負担になります」(高田氏)



(株) タック印刷のラベル製品カタログ。UL規格についての解説も掲載している。

同社では、あえてコストをかけて付加価値の高い製品を提供することが自社の強みであると考え、米国のUL規格に加え、カナダのCSA規格、CSA規格にも対応したUL規格であるcUL規格ラベルを製造し、ニーズに応じて新規UL規格の取得も積極的に行っています。

「定格銘板シールなどは、複数国に輸出する場合、同じデザインで表示言語を変えて使用することが一般的です。そのため、北米向け以外の製品ラベルも同時に受注するケースがあり、UL規格適合ラベルをつくり続けることが当社に対するお客さまからの信頼と受注増加につながっています」(高田氏)

SDGsへの取り組みが 社員の誇りにつながる

2020年に、優良工場推進運動として「すみだリーディングファクトリー」にも選ばれた同社は、海外規格への対応に加え、SDGsの達成を目標としてCSR(企業の社会的責任)を強く意識していることも特長です。

例えばSDGsに掲げられる17の目標のうち、『8 働きがいも経済成長も』、『9 産業と技術革新の基盤をつくろう』、『12 つ



受注から納品までの製造工程システムを全社員が確認することができ、働きやすさを表現している。



工業製品用のラベルには、印刷の精度、ラベルや粘着剤の材料、納品数に至るまで、高い品質が要求される。

くる責任 つかう責任』の3つの目標を選択し、事業に当てはめて取り組んでいます。

特に、『9 産業と技術革新の基盤をつくろう』では、ラベル印刷技術の向上や新規に導入したレーザーマーカ加工機を使った新しい技術への挑戦を謳っているほか、『12 つくる責任 つかう責任』では、安全規格や化学物質規制への対応や、製造過程で発生するシールカスの固形燃料化(RPF)などの取り組みを具体的に掲げています。

「これらは、UL規格やRoHS指令への対応など、これまで当社が従来取り組んできたことが該当します。自社のこれまでの仕事の進め方を見直せば、SDGsに該当する項目が出てきます。社会的責任だからとあまり構え過ぎず、肩の力を抜いて取り組むことで企業、従業員、社会、それぞれのメリットが生まれると考えています」(高田氏)

中小企業の負担になりがちな海外の規格取得やSDGsなどへの取り組みですが、小さなステップでも今できることから取り組み、企業の強みとして活用することで、ビジネスとしての可能性にもつながりそうです。

* SDGs : Sustainable Development Goals
2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標」。

株式会社タック印刷
代表取締役

たかだ ともゆき
高田 朋幸 氏



「CSRや働き方改革にチャレンジする企業姿勢を社会に発信することが、お客さまからより信頼され、従業員が誇りを持って働ける職場づくりにも貢献していると考えています」